

シンポジウム

生きものが よみがえってきた 江戸前の海

入場
無料!

東京湾は、オリンピック・パラリンピックの レガシー(遺産)になれるか

主催：公益社団法人日本造園学会 生態工学研究委員会、公益財団法人日本自然保護協会

後援：公益財団法人東京都公園協会、公益財団法人日本野鳥の会、JLAU(一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟)

2015年12月13日(日)13:30～ 中央区立環境情報センター

東京スクエアガーデン6階(最寄り駅：東京メトロ銀座線・京橋駅3番出口/東京駅八重洲南口徒歩6分)

かつて「江戸前」と呼ばれた東京湾は、豊富な魚介類がとれ、江戸の人々の生活を支えていました。高度経済成長期に一度は大きく減った生きものたちでしたが、海上公園が整備されたことで、ひとが海に親しめる場が戻り、生きものがよみがえりつつあります。

現在の東京湾は、2万羽以上の水鳥が飛来する海です。世界的にも希少な、クロツラヘラサギもやってきます。江戸の食文化でも人気のあった、絶滅危惧種となったウナギも見られるまでになりました。

2020年に、東京でオリンピック・パラリンピックが開かれます。2020年は、生物多様性条約の愛知目標の達成年でもあります。世界の目が東京に集まります。「自然と共生する都市環境の再生」を掲げ、生物多様性をレガシー(遺産)とする東京オリンピック・パラリンピックで、あなただったら何を遺したいですか。

今回のシンポジウムでは、生きものの保護や研究に携わる専門家に「江戸前」の価値や魅力をお聞きし、将来に何をどのように残していくかを、みなさんと考えます。

■プログラム(13:30～17:00)

講演「なぜ東京湾に海上公園が生まれたのか」

樋渡達也(NPO法人みどり環境ネットワーク!理事長)

講演「ウナギから見た東京」

海部健三(中央大学法学部)

講演「鳥たちの東京ベイサイド」

金井 裕(日本野鳥の会参与)

講演「東京湾のトビハゼ～北限の生息地での現状～」

田辺信吾(東京動物園協会葛西臨海水族園)

パネルディスカッション

「東京湾はオリンピック・パラリンピックのレガシーになれるか？」



「鰻蒲焼売」守貞謄稿より
国立国会図書館デジタルコレクション

問い合わせ・申し込み先：日本自然保護協会保護室 TEL：03-3553-4103 Eメール：umi@nacsj.or.jp

※当日受付もいたしますが、資料・会場準備のため事前申し込みにご協力ください。

※造園 CPD 3.0 単位(申請中)